

「この本、よかった！」
『くまごのおひかけ』
作 五味 太郎
(童心社) (101)

皆さんにもおすすめしたい「くまごの本」、今月は、聖徳幼稚園からです。

中道 桜優 (ふじ組)

この本は、幼稚園で先生が読んでくれておもしろかったからまた読んでみようと思っただけでした。男の子がなんかいもわすれものを取りにお家へ帰る所がおもしろいです。

中道 梨恵 (母)

何度も家へ忘れ物を取りに帰る所やどこへおでかけするのか忘れた所は子どもと2人で笑いました。ページをめくるたび次は何を忘れたのかなあ？と子供と想像しながら読める本でした。



(教育総務課)

人権啓発講演会
「松野明美講演会」

元オリンピッククラウンナーの松野明美さんをお招きし、人権啓発講演会を開催します。「人生はいちばんじゃなくてもいい、生まれてきてくれてありがとう」をテーマにお話していただきます。

※手話通訳あり
1月29日(土)13時半から
(13時開場)

所 町民会館集会所

固 生活環境課 ☎820-5606

生協ひろしま創立50周年記念
「被爆ピアノコンサート」

原爆の中で奇跡的に焼け残った「被爆ピアノ」は調律師・矢川光則さんの手でよみがえり、その奏でる美しい音色とともに、平和の尊さ、被爆の記憶を伝えます。深みのある力強い音色をお楽しみください。

時 2月27日(日)13時半～15時

所 くまののびろ交流館

固 生協ひろしまホームページから申込(1月10日～21日)

固 生協ひろしま ☎0120-500-935
(健康推進課)

令和3年度
環境と健康のポスター・標語コンクール

熊野町公衆衛生推進協議会では、町内の小中学校を対象に、健康と環境のポスター・標語コンクールの募集を行いました。

その中から標語を15作品、ポスターを13作品選考し、主催団体である(一財)広島県環境保健協会に提出した結果、6人が受賞されました。

また、標語部門で広島県医師会長賞を受賞した神鳥 恵さん(東中2年・萩原)が式典に出席されました。

【標語部門】

広島県医師会長賞

神鳥 恵 (東中2年・萩原)
「『アハハハ』
ぐんぐん上がるぞ
免疫力」



中学校優秀賞

岡田 鼓太郎 (東中1年・新宮)
「夜中には ブルーライトを 見たらダメ」

中学校奨励賞

戸澤 旭飛 (東中2年・城之堀)
「プラごみは 海に捨てるな 絶対に」
中原 夢加 (東中3年・萩原)
「青い地球 子孫のために 守りぬく」

【ポスター部門】



小学校高学年優秀賞
大立 健太
(第四小5年・川角)



中学校奨励賞
野間 愛莉
(東中2年・川角)
(生活環境課)

絵てがみ展受賞

熊野高等学校

この地に (308)

11月20日(土)、熊野町「筆の里工房」において『第23回筆の里ありがとうのちょっと大きな絵てがみ展』表彰式が行われました。特別賞「日本郵便株式会社中国支社長賞」を受賞したのは3年遠木陽向さん。優秀賞受賞、2年生貞永萌衣さん、田村有莉咲さん。佳作受賞3年金谷巴花さん。その他多くの生徒が奨励賞を受賞しました。

展示会場には、心に沁みる豊かな表現で綴られた文と共に、工夫を凝らした色鮮やかな絵てがみが並び鑑賞者の心を和ませました。本校の受賞生徒も、家族・友との絆や思いを述べた作品が多く、その文の背景や傍らに表情豊かな絵が描かれ心温まる作品でした。美術では、一昨年より入学したばかりの1年生が授業の一環として、様々な水彩画法を学び、絵てがみに初挑戦しています。自分の描きたいものを主体に考え、そこに思いを添えて表現するというスタイルで個性豊かな作品が生まれています。今回受賞した生徒は、喜びと同時に絵てがみを通して、色彩と表現、思いを伝える力を感じた貴重なひと時を過ごしました。



固熊野高等学校 ☎854-4155

熱い思いが伝わった文化祭

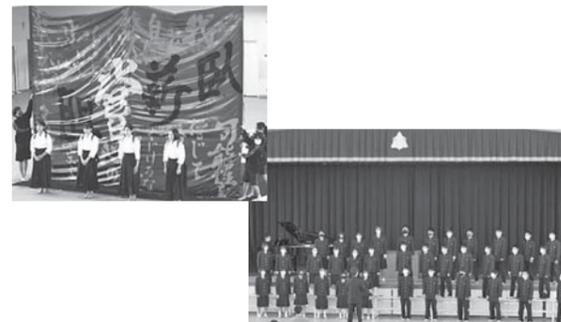
熊野東中学校

9月の体育祭に続いて、10月末に二年ぶりの文化祭を開催しました。今回は生徒の姿を是非見てもらいたいとの思いから、感染対策を十分に行ったうえで、文化祭の学級対抗の合唱を保護者にも参観してもらいました。

これまで東中に脈々と受け継がれてきた文化祭に打ち込む心意気を後輩たちに伝えようとする3年生の姿はとても熱く、参観されている保護者から感嘆の声が漏れるほど感動的でした。合唱の他にも吹奏楽の演奏、書道部の大書、ビブリオバトル、英語暗唱や展示発表と3年生を中心に心に残る文化祭を作り上げてくれました。きっと二年前まで行われていた文化祭に劣らない内容だったと思います。

文化祭実行委員長の3年松藤慧飛くんが、閉会の挨拶で「僕たちが中学校最後の歌に込めた思いは届きましたか？」と在校生に呼び掛けてくれました。この言葉は、間違いなく3年生全員の思いだったと思います。

体育祭同様、文化祭でも3年生が後輩たちに受け継ごうとしている熱い思い・東中魂は、後輩の心にしっかり根付いたと確信しています。



(教育総務課)

第19代組曲「筆の都くまの」披露

熊野中学校

10月30日(土)、今年度もコロナ禍のため、全学年ではなく、2・3年生で隊形を工夫して「第19代組曲」を演じました。

練習時にも制約がありましたが、篠笛・踊り・太鼓・吹奏楽・書道のパートごとに教員がついて練習を重ね、3年生が2年生に熱心に教える姿も見られました。出崎教諭の全体指揮のもと、全パートを合わせて完成度を高めていき、当日はそれぞれの役割を力一杯演じて静と動の糸乱れぬ美しさを見せることができました。

太鼓のパートの藤本くんは「達成感があった。来年はさらに自分たちを超えてほしい。」と新聞社の取材に答えていました。

また、1年生は、前日29日(金)の観覧時に、篠笛パートの一部分を2・3年生と一緒に演奏し、伝統を継承していく決意を強くもつことができました。

当日は大変多くの保護者に参加希望をいただき、二講演行うとともに、新聞にも掲載され、広く披露できたことに感謝しています。



(教育総務課)